

冬にしかできない朝少の活動に、みんな大満足!

例年よりも積雪量の少ない今年の冬でしたが、朝少名物「チューブすべり」は大好評! コースもリニューアルし、1~2月のグレンデには子どもたちの歓声が連日響き渡っていました。また、企画事業「冬満喫体験①・②」「ブナ雪原探検と雪山遊び」にもたくさんの方より参加いただき、寒さに負けずに夢中になって楽しむ子どもたちの笑顔がたくさん見られました。平成31年度も、利用者の皆さんの笑顔と満足のために所員一同全力で頑張っています。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

朝少の冬を遊びつくした「冬満喫体験」

第1弾:「チューブすべりとアイスクリーム作り」1月19日(土)

80名を超える大勢の方が参加し、午前中は思う存分チューブすべりを楽しみました。雪玉的当てや雪中宝探しなどもあって、子どもたちは大喜び! 午後からは、アイスクリーム作りに挑戦しました。



豪快! 朝少名物「チューブスライダー」

手作りアイスクリームは寒くてもおいしかったよ!

第2弾:「イグルー作りと冬キャンプ」2月2日(土)~2月3日(日)

雪を固めたブロックを積んでイグルー作りにチャレンジしました。大人も子どもも力を合わせ、世界に一つだけのイグルーが完成! 夜の雪灯ろう祭りでの花火も幻想的でした。2日目のチューブすべりの後は、あつあつの「ひっぱりうどん」を堪能し、心もお腹も大満足でした。



ブナ雪原探検と雪山遊び

3月2日~3日に企画事業「ブナ雪原探検と雪山遊び」を行いました。初日の夕食は、秋田県の郷土料理「きりたんぼ鍋」。手作りのきりたんぼを炭火で焼き上げ、お腹いっぱいいただきました。

2日目は、月山志津のブナ雪原を講師の横山さんと一緒にスノーシューを履いて探検しました。4mを超す雪の多さに驚いていた子どもたちでしたが、野生のリスに出会ったり雪山の中で木登りをしたりと、冬の月山の魅力をたくさん味わいました。



左沢高校のボランティアのみなさんにも、冬満喫体験の活動を支援いただきました。どうもありがとうございました!

朝日の山並み

発行
朝日少年自然の家
電話
0237(62)4125
Fax (62)4126
ホームページ
山形県朝日少年自然の家
で一発検索



「不便」の反対は「便利」か?

朝日少年自然の家 所長 後藤秀之

先日ある本で「成功の反対は失敗ではなく何もしないこと、成功は失敗の隣にある」という一文を目にしました。

自然の家は“不便を楽しむ所”“不便を理解する所”という話を「出会いのつどい」でよくしていますが、改めて不便の意味を調べてみると「不自由なこと、都合が悪いこと」とあります。一方、不便の反対は何かという問いには、誰もが「便利(役にたつ、助けになること)」という答えを出すことと思います。

さて、朝少でも「TVもない、スマホもない、電子レンジもない」等“不便を感じる生活”を体験しますが、“その不便”の反対側にあるものは何なのでしょう。“便利な生活”“都合のいい生活”“有益な生活”と言っていいのでしょうか。何か違うように感じてなりません。

自力で一からテントを設営して生活空間を確保する、目の前の食材を切って薪の火で調理してお腹を満たす、日が落ちれば暗闇と静寂の中で寝袋に包まれて眠る、夜が明ければ周りの明るさで目覚めるという時間の流れ。自然の法則に抗うことなく、本能を頼りに自分の意志で動く生活です。決して思い通りにはいきませんが、張りあるテントができた時の達成感、形は悪くても手間をかけて作った食事の美味しさ、真っ暗な森の中心で見上げた夜空の星々の美しさ、いつのまにか夢の世界へと誘う無音と漆黒の闇の深さ、テント越しに入る朝の日差しの眩しさと温もり、すぐそばで一日に始まりを告げる鳥のさえずり等は格別なものがあります。非日常的で一見不便と思われていたことから感得できる「生きているという実感」や「心を満たしてくれる感覚」は贅沢の極みと言えるでしょう。

「不便」の反対側にあると思っていた「便利(豊かさ)」というものは、実はすぐ隣にあって、気づかずにいるだけなのかもしれません。

今後のイベントのご案内

朝日わくわく広場①「段ボールでピザを焼こう」 ☆4月27日(土)

具材たっぷりのモチモチピザが、なんと段ボールで焼ける!? 家族や友達と、本格的なピザ作りにチャレンジしてみよう。

7ラネットウム一般公開「春・夏の星空めぐり」 ☆5月18日(土)・19日(日)

春から夏にかけての星の動きや星座について紹介します。

※新年度になりましたら、ちらしおよびホームページにて詳細をお知らせします。